

第5回 阿賀野市地方創生市民会議 議事要旨

1 会議の概要

日 時 平成27年12月24日(木) 午後3:00~3:55

場 所 阿賀野市役所 403 会議室

出席者

【外部委員】

田中座長、芋川委員、上松(昭)委員、上松(和)委員、小林委員、島田委員、
武田委員、羽賀委員、服部委員、百都委員、渡辺委員

【市】

田中市長、圓山総務部長、井上民生部長、土岐産業建設部長

市長政策課：中野課長、荻部参事、菅原課長補佐

2 議事概要

(1) 阿賀野市まち・ひと・しごと創生総合戦略(改訂案)について

3 主な意見(○：外部委員、●：市)

(1) 総合戦略「基本目標1 子育て環境日本一のまちづくり」

○ P16 子育て環境日本一のまちづくりについて、子育てしやすい環境になっていると感じる市民の割合が80%でほぼ現状維持(0.4%増)である。またP18 地域子育て力の向上について、この1年間に子育て行事に参加したことがある市民の割合が38%でほぼ現状維持(0.1%増)となっている。子育て環境日本一を目指す市としてこの目標は低くないか。

● 子育てしやすい環境になっていると感じる市民の割合については、平成25年度の調査結果は38%であったことからこの目標値としたが、委員ご指摘のとおり、子育て環境日本一を目指す市としてももう少し高い目標値を設定したいところではある。また地域子育て力の向上について、核家族化が進み地域の繋がりが薄れ、子育て行事への参加促進が難しい状況にあるが、この2指標については目標値設定を再検討したい。

- 子育てしやすい環境になっていると感じる市民の割合については、どうしても市の財政的な部分が大きく、一気に90%、100%という訳にはいかないと考えている。
- 子育て支援に関して、第3子以降は保育料無料化など優遇措置がなされているが、第1子からそういった措置があればよいと思う。
- 医療費の助成は第1子から該当になる。保育料の軽減措置を第1子まで拡大した場合、相当な財政負担となり現段階では難しい状況である。また、保育料の無料化は国が行うべき施策と考えており、市としても国への要望を行っていく。

(2) 総合戦略「基本目標3 安全・安心な暮らしの実現」

- P26 介護サービスの質と量の充実について、基準値51.7%は高いように見えるが、2人に1人は不満ということである。周りの人からは「介護は受けたいが認定されないため、経済的な負担が大きい。」と聞く。毎年2%ではなく、もう少し目標を高くしてもらいたい。
- 認定されないと介護サービスが受けられないことに加え、今後は要支援の方は介護サービスの適用対象外となる。その対策として、気軽に受けられる介護サービスを新たに構築することを考えている。目標値については再度検討したい。

(3) 総合戦略「基本目標4 地域経済の活性化」

- P34 情報発信の強化について、観光協会のフェイスブックのフォロワー数を600人から2,100人にするという目標だが、どのような意味合いで出た数字なのか。
- 毎年300人程度増加させたいと考え、設定した数字である。
- 年間300人は相当に高い基準だと思う。(達成のためには、)観光協会自体が明確な目標設定をし、それに向けた事業展開を行うことが必要である。
また、フォロワーを増やした後、そのフォロワーを阿賀野市の観光に結び付けることを考えなければならないと思う。

- P35 観光施設の整備と維持管理の充実について、具体的な取組概要が1項目のみなので、もう少し充実させてほしい。例えば、観光施設の整備は総合的なデザインができていないので、それを盛り込んだらどうか。
- 今年度から瓢湖の水きん公園の遊具の修繕、また来年度以降にはリノベーション事業として天朝山公園の遊具整備を予定している。
瓢湖については、国の支援を受けて遊具や看板などの整備を計画的に進めていく。
- P37 ポイント制度を活用した地域の活性化の推進について、目標値である地域ポイントカードの発行枚数3万枚の内訳はどうなっているか。また、カードの利用は市内在住者に限るのか。
- このポイントカードは、市内の方に限らず、市外の方も利用できる。発行枚数について、市内外等での内訳はないが、これから運用を始めていく中で、発行枚数3万枚を達成したいと考えている。
- このポイントカードを観光に結びつけたらどうか。全国的にも珍しい取組なのであれば、積極的に情報発信していくべき。
- 五頭温泉郷の旅館やサントピアワールドなどの市内観光施設からもこの事業に参加してもらえるよう、話を進めているところである。
- この事業はとても可能性を秘めた取組と見ている。市内での買い物のほか観光との連携など色々な使い方があると思うが、いかに多くの店舗で使えるかがポイントである。ポイントカード加盟店数200店が目標ということだが、もう少し高いところを目指してほしい。
- 既存スタンプ会加盟店がすべて地域ポイントカード加盟となるわけではない。基本的には0店からのスタートとなることをご理解いただきたい。